

第1回 広域ごみ・汚泥処理施設整備検討委員会まとめ（要点筆記）

《開催日》 平成21年12月24日（木）午後2時00分～午後4時30分

《場所》 豊岡市役所 3階 第1会議室

《出席者》 委員：寺嶋均、市川陽一、本庄四郎、松永正博、
筑本壽晴、高木哲夫、池田登志、山村紀久子、
尾崎美津人、梅林耕一、杉本章、中田隆子、
垣江重人（敬称略）

組合：施設整備課職員 7名

合計20名

【内容】

1. 開会

2. 委員委嘱

3. 管理者あいさつ

4. 委員自己紹介

5. 正副委員長選任

委員長：寺嶋 均 氏

副委員長：本庄 四郎 氏

6. 報告事項

広域ごみ・汚泥処理施設整備検討委員会について

広域ごみ・汚泥処理施設整備事業の概要について

広域ごみ・汚泥処理施設整備基本計画について

7. 協議事項

委員会の進め方について

先進地視察について

8. その他

次回の開催日について

9. 閉会

【質疑等】

Q：公開する会議録は要点のみか。また、名前は公開するのか。

A：会議録については、要点筆記であり、発言者の名前は公開しない。

Q：ごみ重心とは何か。

A：それぞれの小学校区単位でのごみ量と処理施設予定地までの距離を掛けた
総和が、もっとも小さくなる。効率の良い地点を重心としている。

Q：ストーカ炉の問題点はあるのか。また、他の焼却方式と比べ、どのような
利点があるのか。

- A：焼却方式の選定は、他の方式と比較し最も効率が良く、安定的なストーカ式を採用した。ストーカ式は長年の実績があり、一番安定した炉である。
- Q：DBOは20年間とするのか。
- A：地元区にも25年程度は使用していきたい旨を説明している。期間等を含めた方針については、今後検討していく。
- Q：用地費と造成費を合わせた建設工事費は総額でいくらになるのか。
- A：現在、設計等を行っている段階であるため、総額は出ていない。
- Q：全て合併特例債を使うのか。
- A：合併特例債だけではなく、一部補助金や自主財源もある。
- Q：ボイラーに使用する水源はどうするのか。
- A：水源については、自主水源を考えている。また、プラント排水については、施設内で循環するクローズドシステムを採用する。
- Q：高効率発電を行うと交付金が2分の1になるが、そのような設備も考慮するのか。
- A：そういった設備の整備についても検討していきたい。
- Q：余剰電力についての売電単価はいくらか。
- A：現段階では、把握していない。
- Q：熱源をどこかに持っていき利用することは考えていないのか。例えば市役所の熱源として利用するなどはどうか。
- A：市役所等での利用を考えると、市役所側でも受けるための設備を整備する必要がある。費用対効果の関係で難しい。
- Q：CO₂の排出について、大気中に放出するのではなく、地中に処分する方法もあると聞いたことがあるが、そのようなことは考えていないのか。そのような方法を採用すれば集落にCO₂が排出されないと思うが。
- A：化学的、物理的にCO₂を吸収、吸着して貯留する方法であるが、まだまだ、実験段階であり、その装置を動かすために甚大なエネルギーが必要となる。また、地中のどこにでも排出できるのではなく、大規模な調査も必要となる。
- 実現するのは、20年、30年先になると思われることから、今回の施設では対応できない。
- Q：基本計画は、どの程度見直すのか。
- A：計画のごみ質を含め、施設規模も見直す必要がある。啓発機能については、建設地に見合ったものとする必要がある。
- Q：現在、行われている市のごみ分別区分を変えるのか。
- A：豊岡市については、ほぼ現行どおりとなるが、香美町では、区分が増えるなど変化がある。